

スイス・チューリッヒの映画祭 第49回 Jugend Film Tage (Swiss Youth Film Days) で

ショートショート フィルムフェスティバル & アジア

日本人監督作品を特集！

現地で開催のタレントキャンプには

SSFF & ASIA 2024 U-25部門優秀賞 川邊出雲監督が招聘

3月13日（木）18:00～ blue Cinema Abaton 4



米国アカデミー賞公認・アジア最大級の国際短編映画祭ショートショート フィルムフェスティバル & アジア(SSFF & ASIA)は、今年で49回目を迎える、ユース対象の映画祭としては世界的にも最も歴史的で大規模とされる国立映画祭、「Jugend Film Tage（ユージェント・フィルムタージ）」で SSFF & ASIA の日本人監督作品の特集が決定したことを発表いたします。

映画祭ページ（ドイツ語・フランス語）

https://jugendfilmtage.ch/events/cafune/?book=1&s_id=1ebdd239-423e-455f-ac8d-e65bb7ee2771

世界から30歳以下の監督による作品を公募している本映画祭。フォーカスプログラムでは各年ごとに選ばれた国の映画祭がキュレーションする特集プログラムが展開されます。2025年は日本がフォーカスされ、SSFF & ASIAおよび、ぴあフィルムフェスティバルの2つの映画祭がそれぞれキュレーションしたショートフィルムプログラムが上映されます。

SSFF & ASIAの特集プログラムは、「Heartbeat of Japan（日本の鼓動）」と題され、2024年にオーディエンスアワードを受賞した『カフネの祈り』（監督：増田彩来）、2023年U-25部門優秀賞『DOCBOOK』（監督：羽部空海）、学生アカデミー賞銀賞受賞、今年のオスカーショートリスト入りも話題となった『折紙』（監督：金森慧）、日本と韓国の監督による合作『瞬間移動』（監督：ナム・アルム、丹沢千文、苗加奈那、クオン・オヨン）のほか、講談社シネマクリエイターズラボの企画コンペから生まれた『美食家あさちゃん』（監督：瀬名亮）、『Warmth in a Puddle』（監督：崎村宙央）の2作品、2024年U-25部門優秀賞受賞の『母のレシピ』（監督：川邊出雲）の7作品が上映されます。

深い感動を呼ぶドラマから、ノスタルジックなアニメーション、示唆に富んだ奇想天外な作品まで。それぞれの作家の力強い鼓動を感じ、その才能に魅了されるラインナップとなっています。

さらに、本映画祭が期間中に実施する、世界の映画作家たちとの映画制作を学ぶ4日間の「タレントキャンプ」には、SSFF & ASIAより推薦の川邊出雲監督が招聘される予定です。



『カフネの祈り』

監督：増田 彩来/15:11/ 日本 / ドラマ / 2023

あらすじ：東京で暮らす19歳の大学生 真家 奏良 [マイエ ソラ]のもとに祖父の訃報が届く。引っ越しの忙しさと友人が手伝ってくれている楽しさも相まって、奏良はその連絡の確認を後回しにしてしまう。



『DOCBOOK』

監督：羽部 空海/4 : 24/ 日本 / アニメーション / 2023

あらすじ：留守番をすることになった少女は家中のものを使って…



『美食家あさちゃん』

監督：瀬名 亮/14 : 52/ 日本 / ドラマ / 2024

あらすじ：「可愛くなければ生きていけない」と思い詰めている麻子は中学校の授業中、運命の言葉に出会う。“You are what you eat” (フランスの美食家ブリア＝サヴァランの言葉) その日からさらに可愛くなるために努力を続けて3年が過ぎたころ、クラスに「天使」の名を持つとびきり可愛い少女が転校してきた。友達になった二人の運命は!?



『折紙 / Origami』

監督：金森 慧/2:40/ 日本/ アニメーション /2024

あらすじ：折紙は、正方形の紙を“折る”ことで様々な姿に変身し、どんな姿になっても広げれば元の正方形に戻る。まるで土から生まれ土に還る“生命”のように、正方形の紙が様々な折紙の生き物に変形し、命が吹き込まれていく。



『瞬間移動』

監督：ナム・アルム, 丹沢千文, 苗加奈那, クォン・オヨン/22:33/
日本・韓国 /ドキュメンタリー /2022

あらすじ：21世紀を生きる4人の東アジアの女性たち。パンデミックの最中、オンラインを通して友情を育む。遊び心のあるデジタルジェスチャーで、互いの人生を交差させ連帯を試みる。



『Warmth in a puddle』

監督：崎村 宙央/10:08/ 日本/ アニメーション /2024

あらすじ：換気扇の音だけがこだまする薄暗い部屋で、青年は一匹の魚と出逢う。

歪なかたちをしたその魚は、どこか青年自身に似ている気がした。

ぐったりとしていた魚は突然大きく跳ね上がると、

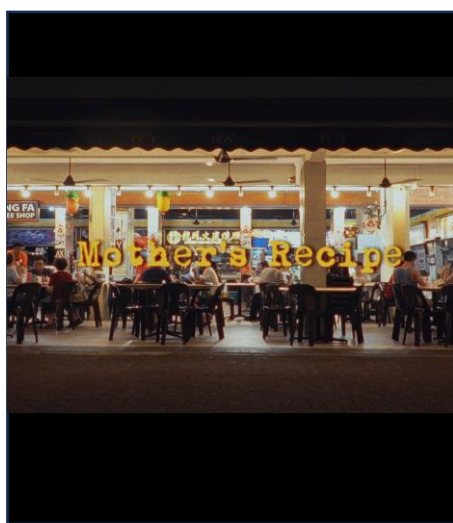
中空をゆらゆらと浮遊しながら窓の外へ。

路上の水たまりに消えていく魚を見つめていた青年は、ある不思議な空間へと

いざなわれていく。

ひとりぼっちで、どこまでも暗いその世界はどこか青年の心象風景に似ていた。

監督自身から見える世界の「生きづらさ」を
幻想的なアニメーションで表現した短編作品。



『母のレシピ』

監督：川邊出雲/04:53/ シンガポール /ドラマ /2023

あらすじ：シンガポールのフードコートで、日本人の少年とシンガポール人の少年が出会い、食べ物を通じ、言語の壁を乗り越え、互いを知る。全く違う文化で育った二人にも関わらず、成長の中に感じる苦悩を共有し、文化を超えた友情が芽生える。



49. SCHWEIZER
JUGENDFILMTAGE
Festival Ciné Jeunesse Suisse 12.-16. MÄRZ 2025

Jugend Film Tage (Swiss Youth Film Days)

主に若手フィルムメイカーの作品を扱う、世界的にも最も歴史的で大規模な国立映画祭。

1976年に初めて若手クリエイターが参加するビデオコンペティションの形でスタート。

年月を経てスイスの若手監督にとって最も重要な登竜門へと成長してきました。中でも3,000以上の作品が集まる短編コンペは5つの異なるカテゴリーで展開され、世界の個性豊かで多様な若手監督たちの才能が発信される場となっています。

第49回の映画祭は3月12日～16日まで、チューリッヒにて開催。

<https://jugendfilmtage.ch/>

SHORTSHORTS
FILM FESTIVAL & ASIA

ショートショート フィルムフェスティバル & アジア

米国俳優協会 (SAG) の会員でもある俳優 別所哲也が、米国で出会った「ショートフィルム」を、新しい映像ジャンルとして日本に紹介したいとの想いから1999年にアメリカン・ショート・ショートフィルムフェスティバル創立。2001年には名称を「ショートショート フィルムフェスティバル (SSFF)」とし、2004年に米国アカデミー賞公認映画祭に認定されました。

また同年、アジア発の新しい映像文化の発信・新進若手映像作家の育成を目的とし、同年に「ショートショート フィルムフェスティバル アジア (SSFF ASIA 共催：東京都)」が誕生し、現在は「SSFF & ASIA」を総称として映画祭を開催しています。

2018年には、映画祭が20周年を迎えたことを記念し、グランプリ作品はジョージ・ルーカス監督の名を冠した「ジョージ・ルーカス アワード」となりました。2019年1月には、20周年の記念イベントとして「ショートショートフィルムフェスティバル in ハリウッド」が行われ、2019年の映画祭より、ライブアクション部門（インターナショナル、アジアインターナショナル、ジャパン）およびノンフィクション部門の各優秀賞4作品が、2022年からはアニメーション部門の優秀賞を含む5作品が、翌年のアカデミー賞短編部門へのノミネート候補とされる権利を獲得しました。SSFF & ASIAは映画祭を通じて引き続き、若きクリエイターを応援してまいります。

<https://www.shortshorts.org>

【本件に関するお問い合わせ先】 ショートショート実行委員会 担当： 田中 press@shortshorts.org
画像のダウンロード

https://drive.google.com/drive/folders/1bFjUz-U0iZmPVsIwfhup9qG3xfo4tTR6?usp=drive_link